

令和 2 年 9 月 7 日
林野庁東北森林管理局
岩手南部森林管理署遠野支署

アイオン台風被害写真展について

岩手南部森林管理署遠野支署では、遠野市役所本庁舎市民ホールにおいて、令和 2 年 9 月 15 日(火)から 30 日(水)までの期間で、昭和 23 年 9 月に来襲し、岩手県に大きな被害をもたらしたアイオン台風の被害写真展を下記のとおり開催いたします。

記

1 概要

アイオン台風は、今から 72 年前の昭和 23 年 9 月 16 日から 17 日にかけて岩手県を襲って県南地域に水害による大きな被害をもたらしました。遠野地域においては早瀬川の堤防が破堤し、現在の上組町や材木町に大きな被害があったほか、猿ヶ石川沿いに敷設されていた森林鉄道に壊滅的な被害が発生しています。

この写真展は、当支署が入手した「遠野営林署管内水害状況写真」(青森営林局作成)を中心とする展示を行い、当時の被害の実態を市民の皆さんに情報提供するとともに、台風シーズンに際して防災意識の啓発に寄与することを目的として開催するものです。

これらの写真には、水害の被害状況だけではなく当時の遠野地域の街並みや農村の姿も映りこんでおり、そうした点からも貴重な資料であるといえます。

2 日 時 令和 2 年 9 月 15 日(火)～9 月 30 日(水) 8:30～21:00

※最終日の展示は 16 時で終了します。

3 会 場 遠野市役所本庁舎 1 階多目的市民ホール

4 展示内容

- ・青森営林局が作成した「遠野営林署管内水害状況写真」(当支署所蔵) 52 点
- ・遠野町アミヤ写真技術部の「アイオン台風水害記録」(遠野市立博物館所蔵) 9 点
- ・その他アイオン台風及び水害関係の資料

5 取材申し込みについて

- ・右下欄に記載の担当に御連絡下さい。

6 その他

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、取材に際してはマスクを着用して下さい。

7 協力

岩手県県南広域振興局土木部遠野土木センター、遠野市立博物館、遠野市消防本部



林野庁

【お問い合わせ先】

支 署 長 野木 宏祐

総括森林整備官 工藤 陽一

電 話 0198-62-2670 (代表)

F A X 0198-62-9628

アイオン台風被害写真展

昭和23年9月16日から17日にかけて、戦後まもない岩手県に大きな被害をもたらした「アイオン台風」。当時の青森営林局が記録した遠野地域における貴重な被害写真等を展示します。



流出した森林鉄道の橋梁



旧釜石線と水没した貯木場

- 期間 令和2年9月15日（火）から30日（水）まで
- 時間 8：30～21：00 ※30日は16時まで
- 会場 遠野市役所本庁舎1階多目的市民ホール
- 入場無料 ※マスクの着用をお願いします。
- お問合せ 岩手南部森林管理署遠野支署 0198-62-2670(代表)

主催 林野庁東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署
協力 岩手県県南広域振興局土木部 遠野土木センター
遠野市立博物館 遠野市消防本部

The 110th Anniversary of
The Legends of Tono 2020
遠野物語

110 周年

アイオン台風被害写真展について

アイオン台風は、今から72年前の昭和23年(1948)9月に日本全土に大きな被害をもたらした台風で、9月16日から17日にかけて、岩手県を通過し、現在の遠野市域、特に、上組町、材木町、綾織町、附馬牛町などにも大きな被害をもたらしました。

現在の東北森林管理局の前身組織である青森営林局では、この台風による遠野営林署管内の被害調査を行い、その記録として「遠野営林署管内水害状況写真」を作成しております。

現在、その原本は行方が解らなくなっていますが、遠野の森林鉄道に関する調査に際して、当該写真を接写していた市民の方からその電子データの提供を受けました。この写真は、濁流に沈んだ材木町の貯木場や壊滅的被害を受けた森林鉄道、当時の附馬牛村の被害の様子などが写っている貴重な映像資料です。

本展は、これらの写真を遠野市立博物館から提供を受けた「アイオン台風水害記録」(昭和23年9月、遠野アミヤ写真技術部)の写真とともに展示し、市民の皆さんに御紹介するものです。

近年、大雨による災害が全国的に多発し、各地に大きな被害をもたらしている中で、郷土における過去の災害の記録に接することで防災への理解を深めていただければ幸いです。

令和2年9月15日

岩手南部森林管理署遠野支署長 野木宏祐

アイオン台風の概要

- 1 期間 昭和23年（1948年） 9月15日～9月17日
- 2 特徴 岩手県で甚大な被害。
- 3 被害 死者512名、行方不明者326名、負傷者1,956名
住家全壊5,889棟、半壊12,127棟
床上浸水44,867棟、床下浸水75,168棟など（消防白書より）
- 4 概要 アイオン台風は、9月16日静岡県伊豆半島南部をかすめて東京都大島付近を通り、千葉県富崎（館山市）と木更津市の間に上陸した。その後千葉県銚子市付近から太平洋に出て、金華山の東約100kmの海上を通過して北海道南東沖を通りベーリング海に進んだ。富崎（千葉県館山市）では最大風速46.7m/s（最大瞬間風速60.1m/s）を観測するなど、中心付近では風が強く、千葉県を中心に家屋の倒壊が多く発生した。また、台風の前面にあった前線の活動が活発となったため、期間降水量が仙台で351.1mm、宮古（岩手県宮古市）で249.3mmなど東北地方の太平洋側で大雨となった。岩手県では北上川やその支流が氾濫し、一関市を中心に700名を超える死者・行方不明者が出るなど、前年のカスリーン台風による被害を上回る災害となった。

5 岩手県における降水量（昭和23年9月15日～9月17日）

地点名	期間降水量	最大日降水量		最大1時間降水量	
	mm	mm	月日	mm	月日
宮古 (岩手県宮古市)	249.3	146.9	09/16	35.7	09/16

（1～5までの引用元）気象庁HP

気象庁>各種データ・資料>災害をもたらした気象事例(昭和20～63年)
>アイオン台風

6 影響

アイオン台風と前年のカスリーン台風による被害を受けて、国は「北上特定地域総合開発計画（KVA）」を昭和25年（1950年）に策定し、戦争で中断していた田瀬ダム建設工事の再開など「北上川五大ダム」の建設事業などを実施した。

アイオン台風による遠野地方の被害

○遠野市史 4 巻による記述 P68～P69

「早瀬川の左岸堤防が上組町上裏で決壊し、上組町から材木町、大工町にかけて早瀬川に平行して川の流れができ、下早瀬橋大工町側が決潰して落ち、住家を流し、初音橋も落ちたので、遠野から松崎への交通は杜絶し、わずかに鶯崎の国鉄釜石線鉄橋を渡って辛うじて人だけ往復した。

カザリン台風の際は遠野地方で死者を出さなかったが、アイオン台風では綾織で七人、上郷で二人、小友で一人の死者を出し、県内では死者三百九十三人、行く衛（原文ママ）不明者三百十六人を出し、国鉄山田線が全線に渡って寸断され、同釜石線も不通になった。

水害としては正に前代未聞の惨事になった。十一月には三笠宮殿下が水害復旧激励に御来県、遠野にも御来町になった。」

○遠野地方の降水量 昭和 23 年（1948） 9 月

河川名	観測所名	15 日	16 日	17 日	計	最多二日雨量
猿ヶ石川	上附馬牛	17.0	238.5	—	255.5	255.5
猿ヶ石川	遠野	13.0	140.8	—	153.8	153.8

出展「データで見るアイオン台風」国土交通省岩手国道河川事務所HP

定本附馬牛村誌（S29）による附馬牛村の被害の記述

18、昭和二十三年（アイオン颱風）

九月十一日より天候曇り十二日雨、十三日曇、十四日はからりと晴れたが、十五日昼頃から降り出した雨は物凄く雨量となり、十六日には洪水特報が報ぜられた。夜に至り雨は益々激しく、各河川の水量も激増し、猿ヶ石川一丈、荒川八尺の増水は遂に氾濫して平地一帯を水の下に沈め上柳の新田新蔵氏の宅は、水上に取り残され、村人たちは死を賭して之が救出に尽力した。当夜午後八時、片岸橋流失、流石頑強の鉄筋コンクリート橋も大洪水の前には敢無く崩潰、流失し続いて同午後八時半頃に同じく鉄筋コンクリートの薬師橋流失を始め、村内各所の橋が流失し、各部落間の連絡は杜絶した。

殊に村の中央である役場所在地は全くの孤立状態となり、進退極まった。又、此の時、荒川岸にある佐藤敏氏宅（立花商店）菊池末吉氏宅並びに藤田茂雄氏の土蔵等は荒川より溢れる水に土台を搔られて斜傾し、又、張山部落の井出清一氏家屋は、その儘浮び上り六間程押し流された。橋と名のつくものは悉く流失されたがその中に唯一箇所、上柳より荒屋へ通ずる木橋、高木橋のみは流失されなかつたのは奇蹟に近かつた。

今を盛りと結実中の作物も流失、埋没、或は冠水し、水災としては正に前代未聞の惨事であつた。

水禍去つて後、村民は只呆然としているのみ、中には多少なりともと、埋没の稲を掘り出し、力なくながめているのも又みじめであつた。

当時の被害状況は次の通りである。

家屋流失	住家、一戸	非住家、七棟
全壊家屋	住家、五戸	非住家、二棟
半壊家屋	住家、二戸	非住家、二棟
床上浸水	住家、二四戸	非住家、二〇棟
床下浸水	住家、一九戸	非住家、四二棟
水田埋没	八一町五反	
水田流失	三五町三反	
水田冠水	七町	
水田浸水	二七町	
水田決潰	三町八反	
畑埋没	一〇町六反	
畑流失	一二町三反	
畑冠水	一五町	
畑浸水	一一町六反	
畑決潰	二町六反	
堤防決潰流失	三三個所	延二一、八〇米
道路決潰流失	二、二三七六米	
橋梁流失	四五個所	五二一米

前年の水害に続くこの災害に徹底的に打ちのめされた本村は殆んど再起不能を危ぶまれたが、よく村民一致して再建を心掛け、昭和二十六年三月には荒川堤防並に薬師橋架橋工事が完成、耕地その他も概ね七分通りの回復を見たが、それ以来耕地の荒廃地になつたままのものも未だ相当残っている。